



第233号紙面案内

第2面～第3面・・・第51回全国研究大会プログラム

第4面・・・理事会報告

第7面・・・第52回全国研究大会自由論題報告募集

なぜ海外に研究成果を伝えようとしないのか？

国際委員会副委員長 吉田優治（千葉商科大学）
 <アメリカ経営学会経営教育部会日本担当理事>

今年3月4日夜、アイビーホール青学会館で「Jim Stoner 教授を囲む会」が開かれた。同会には、国際大学で集中講義のため来日中の Stoner 教授（アメリカ経営学会元経営教育部会長、フォーダム大学）をゲストに、舩富順久会長、岡田和秀国際委員長、本年度米国派遣報告者の馬越恵美子氏をはじめ有志（富岡・川口・小川の各氏・吉田）が出席し、アメリカ経営学会の動向、両学会間のこれからの交流などについて幅広い意見交換を行った。Stoner 教授は、本学会と米国経営学会経営教育部会（The Academy of Management, Management Education & Development Division: AoM, MED）の間の「報告者交換プログラム」の立ち上げに協力され、4年目をむかえた同プログラムを支える米国側の主要メンバーである。

4年半前、同プログラムの立ち上げへの協力要請のため Stoner 教授をマンハッタンにある大学研究室に訪ねて以降、彼は会うたびに「日本人研究者はなぜ研究成果を海外に伝えないのか。私たちは日本人研究者や日本企業の持つ多様なアイデアを学びたい。しかし、現状では残念ながら日本人研究者の研究成果を知ることはできない。日本経営教育学会が定期的に海外に伝えたい著作や論文の翻訳出版を企画してもいいのではないか。海外で翻訳出版すべき日本人研究者の著作を教えてほしい」と繰り返し問いかけてくる。今回の「囲む会」でも Stoner 教授は同様の質問を出席者に投げかけてきた。

3月上旬に同僚2名と渡英し、英国の大学研究者と「経営教育と組織学習」について意見交換をしてきた。われわれと問題意識を共有する Elena Antonacopoulou 教授（リバプール大学、MED 元部会長）や Steven Armstrong 教授（ハル大学、MED 次期部会長、派遣報告者として本年6月来日予定）からも、研究成果を英語で公表し、より多くの海外研究者とアイデアを交換し合うことが重要ではないかと指摘された。世界の研究者と相互に学びあうためには、海外の学会で報告し議論し、英語で論文を書くことが不可欠であると思う。日本からの参加者はほとんどいないが、参加者5千人の約35%が世界各国から集まる次のアメリカ経営学会年次大会はホノルル（8月5～10日）で開催される。わが国の経営学研究者もみずからの研究成果を海外へ積極的に伝える努力をすべきであると思われる。

第51回全国大会プログラム

統一論題 「現代経営におけるプロフェッショナルとその育成」

開催校 明治大学

6月24日（金）

施設見学	キューピー仙川工場
集合場所・時間	京王線仙川駅 12:40（集合）13:00～16:00（見学）
理事会・委員会	明治大学 17:00～19:00

6月25日（土）9:00 受付開始

自由論題報告 9:30～11:05（報告30分、コメント5分、質疑10分）

第1報告			
	A 会場	B 会場	C 会場 院生セッション
テーマ	映画産業における人材教育 －フィルム・ビジネスとプロデューサー－	情報通信技術の光と影－大 学における情報セキュリティ ティプロ教育の考察－	非連続的組織変革の初期プ ロセスにおける組織能力
報告者	川嶋 啓右 (川嶋税理士事務所)	河合 博子 (立命館アジア太平洋大学)	東 俊之 (京都産業大学・院)
コメンテーター	稲山 耕司 (守谷商会)	加藤 賢次郎 (和光大学)	加藤 茂夫 (専修大学)
司会	村上 良三 (青森中央学院大学)	石井 泰幸 (新潟経営大学)	海老澤 栄一 (神奈川大学)
第2報告 10:20～11:05			
	A 会場	B 会場	C 会場 院生セッション
テーマ	プロジェクト X とキャリア 教育－キャリア支援インフ ラの可能性－	電子掲示板によるケースス タディーディスカッション	役員選抜と役員候補者群に 関する考察
報告者	佐々木 利廣 (京都産業大学)	高見 茂雄 (富山大学)	石毛 昭範 (早稲田大学・院)
コメンテーター	水谷内 徹也 (富山大学)	上野 哲郎 (和光大学)	田中 秀穂 (東洋学園大学)
司会	白川 美知子 (九州共立大学)	大平 義隆 (北海学園大学)	中條 秀治 (中京大学)

年次総会	11:15～12:00
------	-------------

昼食	12:00～13:00
----	-------------

The Academy of Management 派遣報告 13:00～14:00	
テーマ	How Different Styles and Perspectives of Learning Affect Knowledge Acquisition in Management Education and Development
報告者	Dr. Steven J. Armstrong (University of Hull Business School, United Kingdom)
司会者	岡田 和秀 (専修大学)

統一論題報告 14:10～16:20（報告40分、コメント5分、質疑15分）

第1報告 14:10～15:10	
テーマ	「東大大学院教育学研究科：大学経営・政策コース設置」事例が投げかける問い
報告者	辻村 宏和 (中部大学)
コメンテーター	厚東 偉介 (早稲田大学)
司会者	森本 三男 (青山学院大学)

第233号

日本経営教育学会

2005.05

第2報告 15:20~16:20	
テーマ	日本における教育システムの問題点と経営教育のあり方
報告者	茂木 賢三郎 (キックマン取締役副会長)
コメンテーター	村山 元英 (中京大学)
司会者	松本 芳男 (日本大学)

特別講演 16:30~17:30	
テーマ	会計プロフェッションの裾野拡大
報告者	藤沼 重起 (日本公認会計士協会会長)
司会者	小笠原 英司 (明治大学)

懇親会	18:00~20:00
-----	-------------

6月26日(日) 9:00 受付開始

自由論題報告 9:30~11:05 (報告30分、コメント5分、質疑10分)

第3報告 9:30~10:15			
	A 会場	B 会場	C 会場 院生セッション
テーマ	21世紀の企業経営のあり方 - CSR経営と環境経営の構築と展開 -	経営学史の教育法	成長戦略としての多角化 - 中国企業の事例にみる成果 と限界を中心に -
報告者	八木 俊輔 (神戸国際大学)	小山 修 (札幌大学)	周 学業 (九州産業大学・院)
コメンテーター	水尾 順一 (駿河台大学)	河野 大機 (東北大学)	王 耀鐘 (関西大学)
司会者	増田 茂樹 (愛知産業大学)	渡辺 峻 (立命館大学)	鈴木 岩行 (和光大学)
第4報告 10:20~11:05			
	A 会場	B 会場	C 会場
テーマ	企業の社会的責任 - 「経営 自主体」論に基づく -	フランチャイジングにおけ る組織間関係	経営学と寛容論の基礎理論 を求めて - 「創造的管理論」 の現代的意義 -
報告者	小野 琢 (愛知産業大学)	小寫 正稔 (東洋大学)	藤沼 司 (愛知産業大学)
コメンテーター	富田 忠義 (獨協大学)	佐々木 茂 (高崎経済大学)	井之川 義明 (マルチメックス)
司会者	櫻井 克彦 (中京大学)	木村 達也 (早稲田大学)	村上 伸一 (桃山学院大学)

統一論題報告 (報告40分、コメント5分、質疑15分)

第3報告 11:15~12:15	
テーマ	経営再建における幹部候補者の育成
報告者	渡辺 幸男 (MBI人材マネジメント研究所)
コメンテーター	高木 晴夫 (慶應義塾大学)
司会者	杉原 英夫 (九州共立大学)

昼食	12:15~13:00
----	-------------

第4報告 13:00~14:00	
テーマ	プロフェSSIONナルの企業内育成 - スペシャリストを中心として -
報告者	川端 大二 (愛知学泉大学)
コメンテーター	谷内 篤博 (文京学院大学)
司会者	池田 玲子 (城西国際大学)

理事会報告

平成17年3月30日（水）、企業経営通信学院（千代田区有楽町）において平成16年度第4回理事会が開催された。

(1)第51回全国研究大会について

プログラムが確定したこと、理事会・委員会を開催すること、キューピー仙川工場見学において質疑応答・試食会が行われること等、大会の準備に関する報告がなされた。

(2)第52回全国研究大会について

第52回全国研究大会が、10月28日（金）～30日（日）に愛知産業大学にて開催される予定であることが報告され、承認された。また、増田茂樹副会長（愛知産業大学）より挨拶があった。

(3)国際交流について

- ・ 8月にハワイで開催されるアメリカ経営学会年次大会に、馬越恵美子氏（桜美林大学）が派遣されることが報告された。
- ・ 3月4日（土）に、「Jim Stoner 教授（元アメリカ経営学会経営教育部会長）を囲む会」が開催され、舩富順久会長、岡田和秀国際委員長、他有志が参加した。
- ・ 5月の韓国経営教育学会大会へ、舩富順久会長以下11名が参加する予定であることが報告された。
- ・ 第51回全国大会（明治大学）における Steven J. Armstrong 教授の報告には、通訳をつけることが確認された。

(4)創立25周年記念出版について

「事典」の内容について現在検討中であることなど、進捗状況が報告された。

(5)入退会について

新入会員2名、退会会員5名の報告があり、承認された。承認後、個人会員数846名、法人会員数11社となった（平成17年3月30日現在）。

中部部会報告

(平成17年3月5日 於：愛知産業大学)

堀田友三郎 (愛知産業大学)

辻村宏和 (中部大学)

第一報告は、谷保範氏 (愛知学院大学) による「競争優位の持続性に関する一考察」で、司会・コメンテーターは辻村宏和 (中部大学) であった。経営戦略論の最大テーマといってもよい競争優位の「持続性」が取り上げられただけに、活発な質疑応答が交わされた。第二報告は、草田清章氏 (愛知産業大学短期大学) による「キャリアの入り口における躓きと人材育成の課題に関する一考察」で、司会・コメンテーターは松原敏浩氏 (愛知学院大学) であった。ユニークな切り口からの仮説検証であっただけに、フロアーからの鋭い質問を誘発した。第三報告は、近藤邦治氏 (社団法人中部経済連合会ベンチャービジネス支援センター所長、名古屋工業大学客員教授) による「当地域によるベンチャー支援活動」というテーマで約1時間の講演、司会は堀田友三郎 (愛知産業大学) であった。近藤氏は中部経済連合会にベンチャービジネス支援センターを立ち上げて5年を振り返り、ものづくり支援のポイントを語られた。

大学人としてはあわただしい時期にもかかわらず出席者数は30名にも上り、学会終了後はにぎやかな懇親会が開催された。

九州部会報告

(平成17年3月7日 於：企業経営通信学院福岡事務所)

白川美知子 (九州共立大学)

平成17年3月7日(月)、企業経営通信学院福岡事務所にて九州部会が開催され20名の参加があった。部会では、宮脇敏哉氏 (山口大学大学院博士課程後期) による「ベンチャー企業が必要とするインキュベーションの研究」、周学業氏 (九州産業大学大学院博士課程後期) による「中国企業の多角化戦略」古市承治氏 (福岡国税局) による「京都議定書発効と環境会計」、吉田高文氏 (長崎大学) による「経営学研究におけるサイド・ペイメントの意味合い」、井沢良智氏 (九州産業大学) による「生産拠点立地の国内外戦略」の報告が行われた。年度末ではあったが、5名の報告者もあり、活発な意見交換がなされ、有意義な学会報告であった。なお、懇親会は『御膳屋』にて行われた。

関東部会報告

(平成17年3月19日 於：立教大学)

枘谷義雄 (立教大学大学院)

平成17年3月19日(土)、立教大学にて今年度第4回関東部会が開催され、約40名の参加がみられた。

第一報告は、山中伸彦氏(尚美学園大学)による、「大卒若手社員のキャリア意識の現状－キャリア志向と自己効力感－」(司会兼コメンテーターは坂本義和氏(立教大学))であった。「キャリア・アンカー」と「自己効力感」をキーワードに、大卒若年社会人のキャリア形成の現状とキャリア意識の把握を目的とした基礎研究の経過報告であり、今後も研究は継続される。第二報告は、杉本昌昭氏(和光大学)による、「組織はなぜ分化するのか」(司会兼コメンテーターは鈴木秀一氏(立教大学))であった。今回の報告は、社会学と経営学の双方にまたがる研究領域として大変興味深いものであった。第三報告は、山本毅氏(システム構造研究所)による、「行政体、自治体における経営教育に関する一考察」(司会兼コメンテーターは青淵正幸氏(新潟国際情報大学))であった。目標管理に基づく研修カリキュラムの報告が中心。地方分権という流れの中で、企画立案力の向上を目的とした研修プログラムによって、各地方が独自の政策を生み出していかなくてはならない時代が来ている。それぞれの発表において非常に有意義な報告がなされ、また報告後に活発な質疑応答が行われた。

報告終了後、立教大学の第一学食2階「藤だな」において懇親会が開催され、30名弱の参加者が会員同志の交流を深めた。

関東部会開催案内

下記の要領にて、関東部会を開催いたします。会員の皆様の積極的なご参加をお願い申し上げます。

日時：平成17年5月28日(土) 15:00～18:00 (受付：14:40～)

会場：立教大学11号館地下1階

第一報告 15:00～15:55

テーマ：「ベンチャー企業の存続に関する研究」

報告者：小野瀬拓氏(東洋大学大学院)

第二報告 16:00～16:55

テーマ：「戦略変更によるトップマネジメントの交替」

報告者：枘谷義雄氏(立教大学大学院)

第三報告 17:00～17:55

テーマ：「戦略的CSRマネジメントの体系化に関する一考察」

報告者：水尾順一氏(駿河台大学)

(6)

自由論題報告募集

2005年10月28日(金)～30日(日)に開催されます第52回全国研究大会の開催校が愛知産業大学に決定しました。報告をご希望される方は下記の要領に従ってご応募ください。皆様の積極的なご応募をお待ちしております。

自由論題報告募集要領

自由論題報告に応募する際には、以下の書式に従い、①表紙(1枚)、②報告要旨(2枚程度)、③参考文献(1枚以内)をセットにして提出すること。②と③で3枚を超えてはならない。

- (1) 表紙：A4サイズ用紙1枚に以下を明記すること。体裁は各自に任せる。
 - ①氏名(漢字およびアルファベット)
 - ②報告テーマ
 - ③所属(現職および職位)
 - ④連絡先電話番号・FAX番号(自宅および勤務先)
 - ⑤Eメールアドレス
- (2) 報告要旨：報告要旨は以下に従い、問題意識、論点、結論などの内容を必ず含めること。
 - ①用紙サイズ：A4サイズ用の用紙を縦に置き、横書きで使用のこと。
 - ②余白：上下左右2.5cm
字の大きさ：10.5ポイント程度、文章は明朝体、タイトルはゴシック体。
 - ③書式：1行40字×30行(1,200字)
 - ④文字数：一人2,400文字以内
- (3) 参考文献：体裁は報告要旨に準じることとする。なお、参考文献は報告と密接に関連するものにとどめ、関係の薄いものは掲載しないこと。

※応募先 日本経営教育学会 会長 飫富順久

〒100-8448 東京都千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館9階 企業経営通信学院

Tel: 03-3282-6211 (学会専用) Fax: 03-5220-4869 (担当: 佐久間)

e-mail: name@yutori.or.jp

※応募締切り：平成17年5月31日(必着)

学会事務局からのご連絡

会費納入のお願い

平成17年度年会費の納入期限は6月30日（会則第6条）となっておりますので、同封の請求書にて期限までにお手続き下さい。また、口座からの自動振替のお手続きをされている方は、5月10日（火）を予定をしております。10日の引き落としをされなかった方は5月25日（水）に振替えさせていただきます。

また、領収書の必要な方は、事務局まで領収書宛名をご記入の上、FAXにてご請求頂きますようお願い申し上げます。

名簿確認のお願い

平成16年4月15日に発行致しました会員名簿について、記載事項（役員名簿、個人会員名簿、法人会員名簿、所属機関別一覧）の誤りにお気づきの方は、事務局まで電子メールまたはFAXにてご連絡頂きますようお願い申し上げます。

学会ホームページのご案内

日本経営教育学会ホームページには、過去に開催された全国研究大会、刊行物、国際交流等の各種の案内を掲示しております。是非ご覧下さい。

<http://www.j-keieikyoiku.jp/>

編集後記

6月24日（金）～26日（日）には、第51回全国研究大会が明治大学で開催されます。会員の皆様のたくさんのご参加をお待ち申し上げます。

加藤賢次郎・杉浦慶一